会　議　録

1　会議名

令和７年度　第２回春日区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

（1）自主的な審議（公開）

・自主的審議事項について

3　開催日時

令和７年５月 14 日（水）午後６時 30 分から午後７時 50 分まで

4　開催場所

上越市市民プラザ　第二会議室

5　傍聴人の数

２人

6　非公開の理由

なし

7　出席した者（傍聴人を除く。）

・委　員：池亀委員、市川委員、上野委員、折橋委員、小林委員、﨑田委員、
瀧本委員、田中会長、田邉委員、原委員、本多委員、松澤副会長、
山谷委員、吉田(実)委員、吉田(義)委員、渡部委員（欠席３名）

・事務局：中部まちづくりセンター　井守所長、村山副所長、渡邉係長、鈴木主事

8　発言の内容（要旨）

【村山副所長】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【田中会長】

・会議の開会を宣言

・挨拶

【村山副所長】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第１項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【田中会長】

・会議録の確認：小林委員に依頼

次第 3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邉係長】

前回の地域協議会では、「子供たちに地域に愛着を持ってもらい、春日区に住み続ける、帰ってきたい地域」と「誰もが誰かとつながっている地域」を課題と捉え、今後の審議を進めてよいか意見を伺った。その結果をまとめたものが資料№1 である。皆さんの気持ちは同じで、おおむね賛成であると捉えた。

この言葉の整理であるが、前回「もっと具体的な表現をした方がよい」との意見もあったので、これを「テーマ」として取り扱うこととし、資料№3 のとおり整理した。資料№3 については後ほど説明する。

これを踏まえ、本日は、①春日区の「テーマ」設定の確認（承認）、②春日区のテーマとする文言の整理、③任期中の審議の進め方の確認を行うことを提案する。

まずは、春日区地域協議会としてのテーマ決定について審議していただきたい。

【田中会長】

事務局から、前回委員の意見は資料№1 のとおり、おおむね賛成であると捉えられるとの報告があった。「子供たちに地域に愛着を持ってもらい、春日区に住み続ける、帰ってきたい地域」と「誰もが誰かとつながっている地域」を審議の方向性、「テーマ」と捉え、審議を進めていくこととしてよいか。

【吉田(実)委員】

1 つ目のテーマについて、うちの子供も上越に帰ってきたかったが、就職先がなかった。就職先や雇用の場がないなど、非常に大きな問題であり、地域協議会で扱えるテーマなのか。具体案を協議し、良い案がなければテーマを変えてはどうか。

【田中会長】

他に意見はあるか。

協議により、良い意見が出てくる可能性もある。このテーマ設定で進めてよいか。

(よしの声)

次にテーマの文言整理を行う。事務局から説明のあったとおり、皆さんの意見から抽出した文言を会長、副会長で整理した結果が、資料№1 下部の修正案である。委員の意見

も踏まえて最終決定したい。意見があれば伺いたい。

【渡部委員】

子供たちが愛着を持ち、このまま住み続けたいということは、あまりにも大きいテーマで、具体的な考えがまとまらない気がする。

【渡邉係長】

具体的な話が出て、皆さんに解決策等を検討していただき、方向性が見えてきたところで、資料№3 の「〇〇について」の〇〇の文言を決めてはどうか。これを春日区の取り組むメインテーマとする。今回の文言をサブテーマとして取り扱うことを提案する。

なお、会長、副会長、事務局の協議では「地域」という文言を「春日」としたこと、分かりやすくコンパクトにまとめることを意識した。

【﨑田委員】

上越市に戻ってくるというと、就職先とか市全体の話になってくるし、春日区だけで考えるならば、周りの旧町村の人たちが町中に住むことで人を増やすとも取れる。あまりにも漠然としすぎて、どの辺に焦点を当てて考えればいいのか分からない。

【渡邉係長】

それはこれから皆さんで決めていただきたい。大きなテーマだが、春日区ならではの話をしていただき、もちろんこんなに大きなスケールで取り組む必要はなく、地域でできる地道な活動として、解決策を検討していただきたい。地域協議会では、あくまでも春日区について協議していただく。もちろんいい取組ができて、上越市全体に波及できればよいが、春日区の単位で考えていただきたい。

【田中会長】

いつでも軌道修正ができると考えられるので、このまま進める。

【吉田(実)委員】

2つの文言にまとめられたが、資料№1は委員の皆さんの意見、ある程度の各論であり、それをまとめたものがこの 2 つの文章になっている。具体案を考えるときは、こういう自由意見のリストを参考に提案していく。本当は、この 2 つの言葉が出てきた大本のリストがあり、それが 2 つにまとまって、今度は各論を具体的にそれぞれ考えるというステップが一番よかったのではないか。

【田中会長】

前回の資料が第一段階になり、それで今ここにつながっていると考えている。そこか

ら地域のこと、子供たちのこと、高齢者のこととなっていたと思い、こういうふうに 2 つに分かれた。前回とつながって考えている。

【渡邉係長】

事務局では、この 2 つが協議を経て、最終的に 1 つにまとまることも想定している。例えば、どちらも同じ結論になり、相乗効果が生まれるものが出ることも想定されるが、そこは結果次第でよいと考える。話を進めていき、地域協議会で協議するには困難だというのであれば、また全然違う取組に変更することもあり得るので、そこはまだ自由度がある。なお、皆さんの意見を見捨てたつもりはなく、これまで皆さんから、現在と将来の観点から春日区の強みと弱みを整理していただいた。また協議する際、前回資料の春日区のコミュニティの形成を確認し、意見を思い起こしながら、進めていただきたい。

【上野委員】

文言の修正案として 2 つ挙げる。1 点目は、もっと端的に「子どもたちが愛着を持てる春日」と変更してはどうか。子どもたちが帰ってこようが住み続けようが、まず愛着を持ってもらわないことには先に進まない。「誰もが誰かとつながっている春日」については、子どもたちだけではなく、全員が対象だということで進めてはどうか。

2 点目は、「子どもたち」の表記について、「子供たち」ではなく、「子どもたち」ではないか。確認し修正していただきたい。

【田中会長】

「子どもたちが愛着を持てる春日」にしてはいかがかという提案があった。皆さんが言っている、住み続けたい、帰ってきたいというグレーな部分が解消できるのではないか。それでは挙手にて採決を取ることでよいか。

【吉田(義)委員】

子供たちが地域に愛着を持つには、我々の世代がここに住んでいてよかったという前提がなければならない。そのために、私は子供たちも含めて家族に町内の活動等に参加するよう言っている。人とつながらなければ、この地域の魅力は伝わらない。

今の問題点は、息子や孫が市外に転居した後にUターン就職ができるのか。我々の時代は教員から就職先を紹介されたが、今、ハローワークではどのように上越地域の就職先を紹介しているのか。地域の企業について、どのような魅力があるのかを知らないことには地元に帰ってこない。地元のよさが分かるような仕組みを作る。そのためには、まず子供の頃から、町内の活動に参加し、地元に関心を持たせ、春日区のよさが分かる

ような流れで話をしないと、何を考えてどう詰めていけばいいか分かりにくい。

【渡邉係長】

資料№3-1 をご覧いただきたい。今後、解決策の検討に入ってから具体的な意見を出していただき、それをするためにはどうしたらよいかを審議する。今は、まず何に向かって話し合いをするかを決めている。具体的な話は今後、是非していただきたい。今の意見もそのまま持ち寄って、グループになるのか、全体会になるのかはこれから決めるが、そこで具体策として提案していただきたい。

【田中会長】

「子供たちが愛着を持ち、このまま住み続けたい、帰ってきたいと思える春日」と「子どもたちが愛着を持てる春日」について、どちらにするか挙手にて採決する。

まず、「子供たちが愛着を持ち、このまま住み続けたい、帰ってきたいと思える春日」がよいと考える方は挙手願う。

(挙手少数)

次に、「子どもたちが愛着を持てる春日」がよいと考える方は挙手願う。

(挙手多数)

採決の結果、「子どもたちが愛着を持てる春日」と決定した。「誰もが誰かとつながっている春日」については全会一致と捉えた。テーマは「子どもたちが愛着を持てる春日」と「誰もが誰かとつながっている春日」に決定する。

次にこれからの進め方の詳細について、事務局の説明を求める。

【渡邉係長】

・資料№2 に基づき説明

・謙信公祭があり、地域活動に勤しむことを使命と捉え、8 月の休会を提案

【田中会長】

8 月の休会に賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

挙手の結果、8 月は休会とする。

【渡邉係長】

・資料№2 及び№3 に基づき説明

【田中会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

テーマの変更に伴い、課題の設定や原因（問題）分析が変わってくる可能性がある。流動的に考えていただきたい。

【池亀委員】

4 年間で一つの課題を解決するスケジュールという理解でよいか。

【渡邉係長】

委員任期の 4 年間で計画を立てたが、今回の自主的審議事項について、すぐに結論を出せれば任期内に次の課題に取り組むことも可能である。ただ、皆さんが思っている以上に審議に時間がかかると考えられるので、4 年間でお示しした。

【吉田(実)委員】

過去の事例を紹介すると、3 期目では、地域の安全という観点から、春日小学校の通学路の歩道除雪に関し約 1 年半で意見をまとめた。春日山の踏切や、歩道がないところを視察した。小学校の南側の歩道は、当初、市から除雪できないと言われたが、実際はできると判断し、意見書を提出した。今は実施されていると思う。

4 期目では、地域活動支援事業の審査がなくなったこともあり、春日山観光に関し、約 2 年で意見をまとめた。春日山の視察研修を 2 回くらい、上田市などへ研修に 1 回行き、意見書を提出した。今の市の観光政策にある程度採用されている。これは地域が実行するのではなく、意見書を市長に挙げて、それが実行に移されている事例。

これから話し合いを進めれば、短いものは 1 年ぐらいで仕上がるかもしれないし、もしくはもっと長くかかるものもあるかもしれない。

要望だが、地域協議会全体の成果発表会を開催してほしい。第 4 期目の成果報告会は各地域協議会で行われたが、回りきれなかった。私は、直江津区と柿崎区の成果発表会しか行けなかった。2 年に渡ってもいいから市全体の成果発表会を開催し、地域協議会委員の全員が参考事例を聞く機会を考えてほしい。

【田邉委員】

資料№2 のスケジュールに 6 月に農業経営の計画報告とあるが、春日区にはあまり農地がない。これは国の方針で説明があるのか。

【井守所長】

昨年度の第 1 回目の会議で、田んぼ 1 枚 1 枚について、10 年後、誰が管理しているのか、地域の農業者やＪＡ、土地改良区などの関係者が話し合い、色塗りをするという話をさせていただいた。この度、25 区で 2 年間、市と地域の農業関係者とで話し合いなが

ら作業を進め、計画を策定した旨報告させていただく。

【田邉委員】

承知した。

【吉田(実)委員】

地域協議会が報告を聞くようなことではないと思うので、資料を配布してもらい、説明は端的に短い時間でよいのではないか。

【渡邉係長】

端的に短い時間で説明する。春日区の農家の方々には担当課から説明をしている。あくまでも地域協議会は参考までにということで説明する。

【本多委員】

報告だけで終わるということだが、農家でない人に報告されても分からないのではないか。私は以前、農家だったが、地元の区画整理はこれから進むようで、全部終わるのに3期計画で多分10年以上かかる。私は分かるが、農家でない人には分からないと思う。ここでそれだけの時間を費やして、説明をすることに意味はあるのか疑問に感じた。

【渡邉係長】

地域協議会には参考までということで、報告させていただく。端的に説明する。

【渡部委員】

春日山城跡保存整備計画の素案が公表されたという情報がある。今まで何回か勉強会を行ったが、それと同じかどうか興味がある。その件についての報告はないか。

【渡邉係長】

今後、施設の関係で魅力創造課が来る予定があり、その時に計画についても説明することはできると思う。

【渡部委員】

素案を公表されたのは事実か。

【井守所長】

今日の新聞報道にも、春日山城跡の整備に係る基本計画素案の記事が掲載されていた。昨年4月に策定した市の通年観光計画を踏まえ、国土交通省の素案が示されたものであり、市はこれから整備計画の取りまとめに入るというのが記事の内容である。具体的なことは、時機を見て地域協議会の皆さんに説明をさせていただければと思う。

【吉田(実)委員】

4 月 13 日付けの上越タイムにも掲載されていた。

【井守副所長】

同様の案件である。

【渡部委員】

公表された内容と、今までいろいろ勉強した内容が同じか確認したい。

【渡邉係長】

前期からの委員は観光について気になると思うが、春日区では前期からの自主的審議事項の積み残しはない。事務局から担当課に通年観光計画の説明を依頼しているので、その際は忌憚のない意見をいただきたい。

【吉田(実)委員】

地域協議会の最初の30分にワンポイントレッスンを行ってはどうか。行政や環境など、委員の勉強の機会を作ってほしい。知識のベースになることを吸収できると思う。春日山観光の話もほとんどインプットされていない方もいるので、担当課から話を聞くなどの機会を作ってほしい。観光に限らず、勉強になることをやってほしい。

【田中会長】

事務局と協議する。

他に質問はあるか。

(発言無し)

次に今後の協議形式について、事務局の説明を求める。

【渡邉係長】

次に、本日決定した 2 つのテーマについて、今後、2 つにグループを分けて協議するか、全体会で進めるかを決めていただきたい。もしグループ別とするのであれば、本日グループ分けを行い、次回から審議を始めることを提案する。

【田中会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【吉田(実)委員】

テーマを決めて、いくつ上がるか。「誰もが誰かとつながっている春日」については、少子高齢化、空き家の問題、老人会の問題などいろいろあり、そこから例えば 2 つ、3 つ出るかもしれない。「子どもたちが愛着を持てる春日」の方は、ゼロかもしれない。まず、どんなテーマが出るか、出してもらい、そこで選別して、実際に取り組むテーマ

が決定したら、グループ分けについて考えてはどうか。2 つとは限らない。過去の事例では、3 つテーマ決めて、3 グループに分けて、個々に審議をした。まずテーマをどうするかについて、審議してはどうか。グループ分けはその後でよいのではないか。

【田中会長】

「子どもたちが愛着を持てる春日」と「誰もが誰かとつながっている春日」がテーマである。テーマが 2 つなので、グループ分けをするならば、2 つに分けるのが順当な考え方ではないか。

【吉田(実)委員】

大きなテーマは今 2 つあるが、それぞれの小テーマが 1 つずつとは限らない。例えば「子どもたちが愛着を持てる春日」の方がゼロで、「誰もが誰かとつながっている春日」3 つ小テーマが出てきて、それが採用されるケースも考えられる。だから、まずテーマを協議し、その次にグループ分けを考えてはどうか。

【渡邉係長】

今の発言の内容は、テーマではなく解決策のことではないか。まずグループで解決策を 1 個ずつ取り組んでいただければと思う。正式名称はまだ決めていないが、テーマを皆さんで 2 つに絞った。これから解決策はいろいろ出てくると思うが、それが地域協議会でできるのかという内容もあると思うので、皆さんで協議していく中で優先順位や、例えば1つに絞るといったことにもなると思うが、あくまでもテーマはこの2つである。もしかしたらこの 2 つが一緒になるかもしれないが、その辺の皆さんの認識はどうか。グループを細分化した方がよいか。

【市川委員】

このテーマは大きすぎると思う。これは春日区だけで考える問題ではない。人口減少や少子化といっても、結婚して子供を産んでくださいと我々が言えるわけではない。高齢化が進んでいるのは間違いないが、これは春日区だけの問題ではない。春日区だけでこれを考えるとなると、非常に大きなテーマである。

【渡邉係長】

あくまでも春日区でどうするかという協議を皆さんにしていただくことに変わりはない。全国の皆さんに向けて考えていただきたいということではなく、春日区ならばどうするか、春日区に愛着を持ってもらうにはどうするかということを、皆さんで協議していただきたい。

【市川委員】

しかし、委員がこれを考えられるのか。私は無理だと思う。少子化、子供の市外、県外への流出は、魅力ある春日区を作れば、歯止めをかけることができるが、人口減少や高齢化の進行は私たちが考えても、歯止めをかけられない。これは自然の流れであって、一協議会で考えて、テーマを考えなさいと言われても、無理がある。

【渡邉係長】

春日区地域協議会に日本の少子化を止めてくださいということではない。最初にテーマとして挙がったのが、「このまま住み続けたい、帰ってきたいと思える春日」であった。せめてここで生まれ育った子供たちには帰ってきてほしい、住んでいてほしい、減らないでほしいというニュアンスで、皆さんから最初に意見をいただいた。人口減少の歯止めが春日区でかけられないとか、人口を増やさなければならないとか、そういうことではない。春日区でできることを協議する。

他の地域の例を出すと、人口減少をテーマに取り組んだ地域協議会がそのまま団体を作り、移住に取り組んでいる地域もある。人口を増やそう、起爆剤になる人を呼ぼうというような活動をしている。全国的なスケールの大きな解決策まで行かなくてもよい。

【市川委員】

資料№3 の解決策のための協議事項の、いつ、どこで、誰が、何をについて、協議ができるとは私は思えない。

【渡部委員】

そんな大きく考えずにその中一つだけでもよいと思う。例えば、いきいき春日野が行っているコンサートのようなものを開催することでも良いと思う。全体の人口減少対策は考えずに、帰ってきたいと思える地域づくり、そちらの方に持っていければよいのではないか。そうでないと進まない。

私は 2 つのグループに分けて、なおかつ希望制にしたら、皆さん後者になると思う。こちらの方が、内容がたくさんあると思うので、その中でさらに細分化して担当を分けるのはどうか。

【上野委員】

最初に 2 つに分けるのではなく、もう少し小さなグループで行ってはどうか。2 つに分けても、人数が多すぎて、思いのほか意見がまとまらない。最初は小グループでスタートし、違うテーマが出たら、また分けていく方が意見も出やすいと感じた。私は一期目

だが、一期目の委員が少ないグループだと意見を出しづらく、また過去の審議状況を手本として出されるとなかなか意見しづらい面もあるので、小グループを希望する。

【田中会長】

グループ分けについては、事務局と協議し、次回以降とすることでよいか。

【渡部委員】

委員の希望の比率ぐらいは今、把握した方がやりやすいのではないか。

【田中会長】

比率を確認するために、2 つのテーマのどちらについて協議したいか、挙手願う。

(各自挙手)

私を除き、15 人で 7：8 の割合であった。あくまで参考とする。

【渡邉係長】

以前のフリーディスカッションの際、事務局でランダムに 3 グループに分けて、それぞれ好きにお話をしていただいた。そんな感じで、とりあえずこのグループはテーマ①を協議し、どんどんメンバー変えていきながら意見を落とし込み、次回までに事務局でそれを取りまとめていくということを何度か繰り返す形が、一番、少人数で協議して、メンバーも変えてやりやすいと考える。時間はかかると思うが、そういうやり方も踏まえて、会長、副会長と協議する。

【吉田(実)委員】

小グループでやるのは賛成だが、意見なしで集まるのではなく、各自、意見を書いて、それを持ち寄ってディスカッションをしたらどうか。ただフリーディスカッションをして、何も結果に残らないようでは意味がない。

【田中会長】

自分の意見をまとめて持ち寄るということか。

【渡邉係長】

次回の案内通知に記入用紙を同封し、各自が書いたものを持ち寄ってフリートークをするという形はどうか。

【田中会長】

事務局の提案について、意見はあるか。

【﨑田委員】

何もない状態から、何か意見を紙に書いて提出しろと言われても、何も出てこない。

ある程度、話題を提供してもらえると、いろいろな方向性が見えてくる気もする。

【田中会長】

自分の意見を書いてもらいたい。

【﨑田委員】

そうは言っても、春日区を全く知らない私にとっては何もない。強いて言えば自分の町内のことぐらいしか分からない。皆さんからいろいろな意見を聞かせてもらうことで、そういう方向性や発想があるというのが分かる程度。

【渡邉係長】

最初は意見がなくても良いと思う。自宅で考えて、何も案が思い浮かばないのであれば、フリーディスカッションにそのまま臨んでいただき、皆さんの意見聞くことで、刺激を受けて、そういえばこんな案があると、その場で話していただければよい。

【田中会長】

事務局の提案について、﨑田委員はどうか。

【﨑田委員】

了解した。

【田中会長】

他にも無理な方には強制しない。意見のある方は記入して臨んでほしい。

【﨑田委員】

先ほど文言整理で、「春日区に住み続ける、帰ってきたいと思える」の部分が削除されたが、資料№3-1 の協議結果欄の「人口減少と高齢化の進行」の部分は全部白紙に戻ったということか。

【渡邉係長】

そちらを元にテーマの文言を作成したので、そこは変わらない。最初にその課題の原因の部分を皆さんで協議し、それを昇華させて言葉にしたのが「子どもたちが愛着を持てる春日」なので、振り出しには戻らない。

【﨑田委員】

テーマの文言は整理されたが、テーマは人口減少と高齢化ということでよいか。

【渡邉係長】

人口減少と高齢化はテーマではない。あくまでも課題であり、それは変わらない。

【渡部委員】

背景にそういうのがあるということではないか。

【吉田(実)委員】

市の地域協議会に関するアンケートに、空き家問題や少子高齢化など、全市もしくは全県、全国にまたがるような共通の課題を審議する組織を新たに作ったらどうかと提案した。事務局は春日区独自で何かやるべきことを考えなさいということだが、なかなか難しい。いきいき春日野では、シニアを対象に月次のイベント、健康診断やふれあいコンサートを実施している。フリーディスカッションの記録によると、土橋町内会が紹介されている。いろいろな行事もされているが、そこでの問題は役員の成り手がいないこと。そこを切り口に何か考えることもできる。町内のことでもよい。私は老人会に去年入ったが、老人会の再生を、いきいき春日野を参考にして何かやっていきたいと思っている。だから、私はそういうところを切り口にしてやっていく。

【渡部委員】

資料№3 の「解決策の検討」について、記入するという解釈でよいか。

【渡邉係長】

そのとおり。皆さんがこの間話されていた「具体的な案」をここに記入していただきたい。

【田中会長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

以上で次第 3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第 4 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

・次回の地域協議会：6 月 11 日（水）午後 6 時 30 分から

上越市市民プラザ 第二会議室（予定）

【田中会長】

ただ今の説明について、意見を求める。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で次第 4 その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第４その他の「（2）その他」に入る。

その他、何かあるか。

（無しの声）

・会議の閉会を宣言

9　問合せ先

総合政策部　地域政策課　中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。